



新時代そうま代表
只野敬三 議員
が問う！

相馬市の未来のために私たちのやるべきことは何か？

相馬市が目指す未来像へ向けての取り組みについて

市民からは、「今の温暖化による気象状況の変化を考えると、これからは、昨年の台風19号程度の雨は、いつでも起こりうる。今年の夏も不安でしょうがない」との声がある。河川の浚渫だけでは安心できず、河川幅を広げる、堤防の高さを上げる、排水路を増やすなどの抜本的な改修をしてほしい。

宇多川、小泉川の改修及び都市下水路の整備について問う。

宇多川、小泉川の管理者である県は、両河川の改修計画について、現在、国と協議を進めている。市は、早期の河川改修、国土強靱化の取組

の拡充・継続、予算の確保について、県に強く要望するとともに、国に対しても、直接、国土交通省水管理・国土保全局に強く要望してまいりたい。

都市下水路については、現在、JR相馬駅の西側から線路をくぐる水路は3本で、しかも農業用水路の形状のため隘路であり、さらに、JR相馬駅の東側から旧国道6号の下を流れる都市下水路が1本しかない状況である。これらの水路の改修、拡幅のためには、用地買収はもとより、JR東日本及び旧国道6号の管理者の県との調整に相当の時間を要することが考えられるため、小泉川の改修後に、小泉川ポンプ場の排水能力を強化し、さらに、購入予定の排水ポンプ車により、浸水が度々発生している地域の排水を実施し、対応してまいりたい。

市内小中学校の計画的な再配置及び公民館活動の充実について

現在、小・中学校を再配置することにより、現在の地域から小・中学校が移転することは、児童・生徒、その保護者を初め、地域住民の故郷を思う意識に大きな影響を与えることから、できるだけ各地域の小・中学校は現状のままで存続させたいと考えている。

将来、児童・生徒の減少により、子供の教育に大きな支障が出るというような考え方が、特に保護者から強く示される場合や要望があった場合は、地域住民と十分な協議の上、慎重に検討してまいりたい。

また、公民館活動の充実については、地域の結びつきを大切にする行事や講座等の開設に努め、地域の子供たちからお年寄りまで誰もが気楽に立ち寄ることができるように図ってまいりたい。



動画は
↑こちらから↓



にじ
石橋浩人 議員
が問う！

早めに次の処分場の候補地を検討すべきと考えるが。

相馬市一般廃棄物埋立処分場について

相馬市一般廃棄物埋立処分場は、昭和60年から埋立てを開始し、約35年近く経過しようとしているが、市民の皆さまの協力のもと、4R運動の取組みなどにより、埋立量も減少しているが、現在の埋立て状況と今後の見通しを問う。

現在の埋立て状況と今後の見通しについて問う。

供用開始から本年2月末までの埋立量は約25万3、000立方メートルで、残りの埋立容量は、約4万7、000立方メートルとなっている。

市としては、直近3か年の平均埋立量の2、600立方メートルで今後埋立てが推移した場合、約18年間は埋立てが可能と見込んでおり、現在埋め立てている一般廃棄物の9割が生活ごみの焼却に伴う焼却灰であることを踏まえ、今後もごみの減量化と再資源化を市民に働きかけ、埋立量の削減と施設の延命化に取り組んでまいりたい。

今後の職員体制について問う。

3、4年後には最終処分場技術管理士の資格を有する者の補充を検討しなければならず、再任用職員等が退職した場合やシルバー人材センタ―からの派遣がない場合は、それぞれの補充について検討することになると考えている。



磯部地区一般廃棄物埋立処分場

その他の質問

○県立相馬支援学校について
○JR相馬駅のエレベーターについて



動画は
↑こちらから↓



新時代そうま
山中宣明 議員
が問う！

営農者に対する作付け問題をどのように解決していくのか。早期の対応をお願いしたい。

台風19号と水害被害対策の進捗状況について

台風被害により、今年度作付けが出来ない方への支援策はどのように行っていくのか、新たな試みで農地の保全と管理という観点から景観作物などを植えるなどして、農地保全に取り組んだ場合、その活動に対して支援を行うなどの対応を考えて行く必要がある。

被害を受けた農地に対する対応について問う。

発注済みの工事や今後発注する工事の進捗状況を踏まえた来季の作付け可能範囲等について、生産組合や水利組合と協議の上、その協議結果

を各農家に周知してまいりたい。

なお、災害復旧工事の進捗等により、本年の稲の作付けができない農家に対する支援について、今後、県などと協議してまいりたい。

復旧に係る受益者の負担については、工事費40万円以上の大規模農地復旧が通常の50%から0.2%に、工事費40万円未満の小規模農地復旧が通常の50%から10%に、さらに水路等の農業用施設復旧が、その公共性に鑑み、通常の35%から0%に、農家の負担を軽減することとしている。

大雨時におけるお堀の水門操作マニュアルについて問う。

中村城跡のお堀及びそれに接続している水路からの越水を防ぐため、気象庁等の予報により台風等の大雨が予想される場合には、あらかじめ中村城跡周辺の水門を操作し、お堀の水位を低下させている。

具体的には、大雨予報の3日前に、お堀の水を浄化するために稼働している西山地内のポンプを停止させ、二の丸球場裏にある内堀の水門、蓮池の水門、柳橋にある外堀の水門を開けることにより、お堀の水位を徐々に下げる作業を行っている。

さらに市は、大雨時においても、お堀や駅前等の水位を随時確認の上、お堀の越水や駅前等の冠水が生じないよう、各水門を操作しているところであり、これらの水門の手順はマニュアルとして作成している。



動画は
↑こちらから↓